

春風秋霜

5月号

平成29年5月1日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 新年度が1ヶ月過ぎて

新しい分掌に戸惑い、あわただしく1ヶ月を過ごした方もいると思います。学校は、力量のある教職員に仕事が集まる傾向があります。また、力量のある方は、仕事の糊代が大きく、分掌以上の仕事をし、組織の要になることも多いと思います。

今は先が見えず不安が大きくても、1年過ぎればそれほど負担になりません。負担に感じる時は、自分の中に新しい力が付きつつあると思うことが大切です。一度経験すれば次はずいぶん楽になります。

しかし、負担が大きすぎる時は、声を上げることも大切です。一人でできないことも、複数で行えばできます。組織や仲間を信じ、頼ることも教職員として必要な能力です。

2 日本人びいきについて

オリンピックをはじめ国際大会だけでなく、様々な国が参加する競技会において、日本人を応援することはよくあります。大相撲春場所千秋楽において、稀勢の里が照ノ富士に連勝し、優勝したことを喜んだ人は多いと思います。

しかし、照ノ富士が琴奨菊戦の立ち合いで変化をして勝った時、「モンゴルへ帰れ」という野次が飛んだことが議論になっています。横綱や大関が変化して勝つことは好ましくないという人は多いですが、稀勢の里が照ノ富士に対して変化したことは責められず、同じように怪我をしていた照ノ富士の変化だけ責められるのは違和感があります。「モンゴルへ帰れ」という野次はヘイトスピーチだという人もいます。

スポーツを愛することもひいきの選手がいることも大切なことですが、行き過ぎの中にある偏見や差別は無くさなくてはなりません。東京オリンピックではモンゴルのボクシング選手が島田市で事前合宿を行います。シンガポールの卓球の事前合宿も行われるかもしれません。どんな国の方々とも親しい隣人としての付き合いが望まれます。

3 部活動について

最近、部活動のあり方が話題になることが多いです。部活動は、生徒の自主性・主体性の成長や市教委が推進している強い心の育成にも大きく貢献していますが、過度な部活動による、生徒・部活顧問・保護者の過重負担が問題になっています。

電通の時間外勤務が大きく報道された後、部活顧問の負担が問題になり、一部の報道の中には、ブラック部活という文字も見られます。しかし、この問題は、顧問だけでなく、生徒や保護者の問題としても考えなくてはなりません。

ある顧問と話した時、雨が降れば部活を休みにしているから、休養は取れていると言われました。また、強い部活にするためには、強いチームと試合をすることが必須になり、部によっては、半年先までの試合がぎっしり詰まっています。これでは、計画的な休養は取れず、家族や自分の時間がつくれません。また、保護者負担の多い部活は、部員数が減少しているとも聞きます。

強い部活が生徒の自信や自己肯定感に繋がることは評価されますが、これまでの部活を

見直す時期にきていることも事実です。国や県にも規制の動きがあります。規制されたから変えるのではなく、変えることが必要だから変えるという視点が大切です。生徒・保護者・部活顧問の負担を適正にするために、本年度の取組に期待しています。

4 地域活動への参加について

本年度、私は地区の組長と防災のブロック長を引き受けることになりました。回り番ということもありますが、地域のために少しでも役立つことができればと思っています。

私の組は、ずっと6軒しかなく、長い間6年に1度、組長が回ってきました。(最近は、8軒) そのため、これまで、組長を断った家はありません。

以前、「教職員は多忙を理由に地区役員を渋る」と聞いたことがあります。最近、そんな話を聞かなくなりました。地区役員や地域活動への参加は、地域づくりに欠かせないものです。悲惨な事件が起こる度、地域力の向上が求められますので、より多くの教職員の参加をお願いします。

忙しくても計画的に仕事を進めれば、地区役員も種類によってはできると思います。多忙化のために地区役員の就任や地区活動に参加できないと考えるなら、多忙である学校内の仕事を見直すという視点も必要だと思います。

5 注意喚起を

市内で水の事故が起きました。今後、子供たちが水で遊ぶ機会が多くなるので、十分な指導をお願いします。

肘かけ椅子

高橋 淳 学校給食課長

去る4月5日、学校給食に従事する職員の合同研修会を本年度はじめて開催した。

学校給食の調理工程や衛生管理、労働安全などの基本を確認するとともに、それぞれの業務間の連携の大切さについて再確認する、良い機会となった。

開催準備を進める中で、学校給食に従事する職員の人数を確認したが約130人もおり、多くの人たちが支えてくれていることを改めて実感した。

学校給食は、学校生活の中で子供たちが楽しみにしている時間の一つである。第一の使命は安全安心に提供することであると考えている。

給食積載時のコンテナは、1台が約500kgにもなる。このコンテナに関する作業は、一歩間違えれば生命にもかかわりかねない大変危険なものである。そのため、作業に従事する者の服装、給食トラックリフト、配送員と配膳員の声掛けなど、細かい点まで十分に留意する必要がある。

研修会では声掛けなど意思統一の大切さ、基本的事項の大切さ、日頃の点検・管理など、どんな業務にも通じる基本の大切さを再確認したところである。

人が携わる以上、ヒューマンエラー、思い違いなどは避けることができないが、いかに未然に防ぐかが大切であり、今後も職員研修、日常の打合せなどを通じて徹底していきたいと考える良い機会となった。

子供たちがおいしいねと言って笑顔で食べる情景を思い浮かべながら、職員一丸となって、努力を重ねていきたい。